

I 学校の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

高松市立国分寺中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年
6学級 199名	6学級 218名	7学級 233名

○教員数 41名

◆学校の特徴

本校は現在、校訓「自主・独立・協同」のもと、学校教育目標を「生徒の生涯を見すえた組織的な教育の展開」と定め、「チーム国中」を合言葉として、教職員が一丸となった教育活動の展開をめざしており、学習指導や生徒指導において、指導に係る教職員間の情報交換を円滑にするとともに、共通理解・共通指導の徹底を図っている。

生徒は、一人ひとり様々な家庭環境・社会環境の中で成長してきており、その保護者を含めて行動様式や価値観が実に多様である。そうしたことが、集団を形成した際に、多様で豊かな集団の形成という長所となって表れる一方で、生徒間でのトラブルに繋がることも少なからずある。過去には、生徒間の繋がりが希薄になり、生徒指導上の問題が多数顕在化したこともあった。現在は、生徒一人ひとりに寄り添う生徒指導の徹底により、多くの生徒が生徒同士及び生徒と教職員間で良好な関係をもつことができおり、授業が好きで、学校が楽しいと感じている。一方、主体的に学習に取り組む態度や最後までやり遂げようとする態度の形成には課題がある生徒が見られる。そこで、期待する生徒像として、①「夢をもち、学び続ける生徒」、②「やり遂げようと挑戦する生徒」、③「自他を尊重し、他に貢献できる生徒」を掲げた取り組みを展開している。

平成30年度より、本校の課題を総合的に克服するため、人権・同和教育を基盤とした「なかまづくり」の取り組みのうえに学びの共同体の理念を参考にした『国中協同学習』の実践をスタートさせた。令和2・3年度はコロナ禍のため、事実上一時中断状態になり、十分な協同学習が行えない時期もあったが、4年度から学習の在り方を段階的にめざす形に戻すとともに理論武装も再開し、研究活動を継続している。

II 研究主題等

研究主題

なかまとともに学び合い、未来を拓く生徒の育成 ～国中協同学習を通して～

◆研究主題設定の理由

本校の生徒の課題である、「主体性」と「なかまづくり」に視点を絞り、課題設定や授業展開により、生徒が自ら学びに向き合うことのできる、しかけのある授業を実践したいと考えた。また、教育活動全体を通し、学び合うなかまづくり「学びのコミュニティづくり」を推進し、ともに未来を切り拓いてい

く意識や実践力を身に付けさせたいと考えた。国中協同学習の実践を核にして、期待する生徒像育成につなげたい。

期待する生徒像の具体は次のとおりである。

- ①夢をもち、学び続ける生徒「確かな基礎学力を身に付けた生徒、グローバルな視野を身に付けた生徒、知的好奇心や探求心の旺盛な生徒、読書をする生徒」
- ②やり遂げようと挑戦する生徒「何事にも力一杯取り組む生徒、難しいことにも我慢し粘り強く取り組む生徒、自らを鍛え、規律ある豊かな生活を送る生徒」
- ③自他を尊重し、他に貢献できる生徒「生命を尊重し自ら健康管理ができる生徒、優しさと思いやりの心をもち「なかまづくり」に努める生徒、規範意識を身に付けた生徒、地域社会の一員としての自覚をもち、自己責任のとれる生徒」

◆研究内容及び方法

- (1) 国中協同学習の展開
 - ・ 「国中学びのルール」を意識した、生徒が主体的に学び合う授業展開の工夫
 - ・ 落ち着いた授業環境と授業規律の確立
 - ・ 基礎基本の定着と学習意欲の高揚、教科の本質に迫ることのできる学習課題の設定
- (2) 研究推進4部会による研究推進
 - ・ 全教職員で行う計画的な道徳の実践（学期に1回のローテーション道徳）
 - ・ 「学びのコミュニティづくり」の基盤づくりとなる特別活動、総合的な学習の時間の実践
 - ・ ICTを活用した魅力ある授業づくり
 - ・ 3年間を見通し、系統立てた人権・同和教育の実践
- (3) めざす教職員像の実現に向けた計画的な教職員研修の実施
 - ・ めざす教職員像「実践力のある教職員、明るく活力のある教職員、責任感の強い教職員、自主研修に努める教職員、生徒や保護者・地域とともに歩む教職員、生徒のことをよく知る教職員、「チーム国中」を合い言葉に共育・協働の実践に努める教職員」
 - ・ 月1回の現職教育全体会の実施
 - ・ 日常的な相互授業参観の実施
 - ・ 香中研高松支部南ブロック研究大会の実施（11月1日）
 - ・ 若年研修、研究推進4部会、団会での情報交換と実践内容の共有

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

県学習状況調査、校内アンケートの結果を比較し、課題と成果を分析する。

校内研修で比較結果を共有し、本校の課題を認識し、実践に生かす。

- ① 全国学力・学習状況調査、及び香川県学習状況調査、学校の独自アンケート調査を行い、その結果を基準値とする。
- ② 基準値、及び国や県の調査結果、生徒の実態等を踏まえて目標値を設定する。
- ③ 11月に調査を行い、達成状況を考察する。

Ⅳ 研究成果の普及方法

- ① 香中研高松支部南ブロック研究大会を市内の学校に案内し、公開する。
- ② 香川の教育づくり発表会で実践内容と成果を発表する。
- ③ ホームページや学校だよりなどで実践内容を紹介する。